

# 聖書宣教会通信

東京都羽村市羽西 2-9-3 Tel:042(554)1710 Fax:042(554)5562 www.bibleseminary.jp 振替 00150-6-34971

## 巻頭言

### 「牧会者の現場から」

今泉キリスト福音教会牧師 聖書神学舎教師

岡本 昭世

聖書神学舎を卒業して41年を過ぎました(11期、1970年卒)。その間ほとんど毎週のように講壇に立って、聖書から説教を続けることができ、感謝しております。私にとって短く感じられた3年間の学びと訓練を受けて、牧会の現場に出て行き、4つの教会に導かれ、さまざまな経験をしながら、牧会と伝道の奉仕をして今日に至っています。さらに、途中で長い中断が2回もありましたが、現在3度目のご奉仕として聖書神学舎の教壇にも立たせていただいています。そのような立場から、最近考えていることをいくつか記してみたいと思います。

説教の準備をするとき、示された聖書の箇所を調べつつ、いつも考えさせられるのは、聖書が誤りない神のことばであるということです。私が信仰生活を始めた教会が、聖書的福音的な教会であったことは、何よりも幸いなことでした。それを神学舎の学びの中で改めて深く学ぶことができ、補強されたと思っています。従って、聖書のテキストから、その箇所が何を第一に伝えようとしているのかを、引き出していくことに精力を傾ければよいので、テキストに誤りがあるかも知れないと思いつつ、準備し、説教するのと大きな違いがあると思っています。そしてまず説教者が教えられて、それを教会員と分かち合うことができ、さらに毎日の生活の場でみことばにどう生きるべきかを、ともどもに教えられて行くのは、幸いなことであります。

聖書神学舎が創立当初から目指してきたことは、神学生に聖書をギリシヤ語ないしヘブル語で読む訓練を施すことでした。実際の牧会の現場で、毎週の説教を常に原典に当たりながら準備することは、むしろ困難ですが、なお時間をかければ、原典で読むことができる訓練は受けて来たという確信があります。

それは注解書を読む時にも当てはまりません。その中に出て来る説明が、ことばの上でも、文法的にも、神学的にも自分で検証できるはずだからです。残念ながら、日々の生活では時間が足りないので、十分に学びを深めることはできません。しかし、かつて卒業論文を書いたのだから、その後に見出した学びの課題を、いつか時間をかけてやってみたいと思いつつ、牧会伝道に励むことが大切と思っています。

以前からそうでしたが、大きく成長した教会の伝道方法や礼拝の持ち方などが牧師たちの耳に入って来ます。さらにさまざまな教えの風も教会の中に入って来ます。そのとき、何をどのように取り入れ、あるいは取り入れないか、牧会者は自ら検証しなければなりません。別な見方からすれば、聖書全体からの基本的な教理(神学というべきでしょうか)を身につけ、適切な判断をする能力がなければならぬと思われまます。神学舎での学びは、その点でも役に立つと考えられます。一定の期間での学びではありますが、その後の牧会伝道の現場で研鑽を積んで行くことによって、さまざまな問題に直面したとき、それらを調べて自分なりの確信によって、より適切な選択ができると思われまます。時には失敗するかも知れませんが、しかし、主は確かにこの私を選んで、尊い主のお働きに任命して下さり、しかも忠実な者と認めてくださっていることを忘れてはならないと思います。主は私たちを、信頼して下さっているのです(Iテモテ 1:12 参照)。





# .....2011 年度夏期伝道実習の報告とあかし.....

キャラバン委員長 鈴木俊見 とし あき

2011年度のキャラバン伝道も、主に導かれ、守られて無事に終了しました。17名からなる4チームが各教会に遣わされ、用いられたことを感謝いたします。

今回のキャラバン伝道は「キリストによって」というテーマを掲げました。キリストによって召され、教会を建て上げるといふ思いを持って各地へと遣わされ、それぞれがその先々で主に整えられる経験をしたことと思います。牧会の現場を見、伝道の現場へと遣わされていくキャラバン伝道実習は、研修生にとって大変意義深いものです。受け入れてくださった諸教会の皆様とお祈りくださった皆様に感謝いたします。

10月からは2012年度のキャラバン伝道に向けての準備が始まります。続けてお祈りとご支援をよろしく願います。

## いしのみなと教会（宮城県）

日程：7月18日～25日

大高伊作、林武志、若林義也、仲田志保

### 『本当の慰め』

「人にはできないことが、神にはできるのです」  
(ルカ 18:27)

石巻では、5月に活動した時よりも瓦礫は片付き、仮設住宅も建っていた。「物」の復興は進みつつある。ただ、「心」の復興には膨大な時間がかかる。信徒の方の体験を伺ってそう感じた。

その方は、普段明るく話しているが、震災によって15名の友人を失ったという。「神様はなぜ私から友人を奪ったのですか」と怒り、「もう神など信じない」とつまずいた。しかし、主が共に悲しみ、泣いてくださることが教えられ、慰めを受けることが出来たと言う。

人は、自分が体験していない悲しみを想像することに限界がある。それだけに、残された遺族や友人たちの心を癒すことは、人には不可能だと痛感する。心の癒しは時間が解決するものでもない。しかし、主に不可能はない。必ず石巻に本当の慰めを与えて下さる。祈り続け、出来る限りの支援を続けてい

きたい。それを確認することが出来たキャラバンでもあった。



## 皆野キリスト教会（埼玉県）

日程：7月19日～24日

香川直樹、久島香子、鈴木俊見、齋藤満、輪田豊

教会がある地域では、沢山の家庭が野菜などの自家栽培を行っており、教会の周りには季節の野菜が熟して収穫を待っています。



私たちが早朝ポスティングの奉仕をする頃には、既に農作業をしておられ、頭を下げると気持ち良く挨拶を返して下さり、田舎の温かさを感じることができました。一方、寺や神社が多く、夏には毎日のようにどこかで祭が行なわれ、古からの因習が根強く残っています。

心から主を愛しておられる兄弟が、信仰によってお互いを励まし合う素敵な教会でした。訪問させていただいたご家庭では、私たちが歓迎して下さり、楽しい、主にある良き交わりを持つことができました。そして何より、私たちと一番時間を共にして下さった吉永牧師との交わりが、今回のキャラバンのハイライトになりました。先生は先輩として、宣教会の歴史、牧会生活、趣味について熱く語って下さいました。一つ一つの出会いに心から感謝します。



## 2回の救援奉仕活動を終えて

本科1年 東海林隆之

被災者の方と同じ様に感じ、同じ心境になろうとする。そんな高慢が心に忍び込み、悔い改めると共に、心中に硬い石を投げ込まれたような気持ちで帰路についた5月の救援奉仕活動。石は何か変化するだろうかと思いつつ、7月11日、私は再び陸前高田市を訪れた。

教会訪問、ボランティアセンターに登録しての作業（今回は主に除草）、仮設住宅への物資配布。私たちの活動は基本的に以前と変わらないが、環境は、必要は、問題は変わる。

色が増えた。見渡す限り瓦礫が広がっていた沿岸部では重機が活躍し、地面が見えた。商店は営業を再開し、その看板は人々の希望を背負わされているようだ。制服の中高生が自転車を止め、話し込んでいる。幾つかの再会があり、傷は癒えないながらも少し明るさを取り戻された方の表情に、感謝を覚えた。

各方面から頂いた情報の通り、夏の仮設住宅では虫駆除物資や下着類が不足していた。

被災者の方、行政、ボランティア、それぞれの正義が錯綜していた。震災直後から時間が経ち、とにかく救助を、という空気が少し落ち着いて来た中で固まった各々の正論のピースは、綺麗にはまらない。復興のただ中で教会がみことばという基準を示す役割を担い、私たちの狭い経験ではなく、救い主自身とその導きを求めることの大切さを覚えた。

2回の救援奉仕活動を終え、私の心の石に変化はないが、この石の下には「喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣きなさい。(ローマ12:15)」と書かれた紙が置かれているようだ。私はこれからも喜び、泣き、祈り続ける。

## 教会音楽夏期講習会の恵み

岡南教会 石井恵実

たまぐすく  
玉城バプテスト教会 照屋 清美

講義Iから講習会に参加した。中心聖句は、コロサイ3章16節。まず、「詩」と「賛美」と「霊の歌」に注目し、それぞれの単語が他の聖書箇所どこに用いられているかを見ていった。それはとても新鮮な作業で、「賛美」は祈り、宣教、告白であると学んだ。

また、この聖句の構造は、「キリストのことばを、住まわせなさい」という命令で始まり、「賛美」はそのための手段であると学んだ。そして、「住まわせる」とは、単に内側に宿ることではなく、それが支配し、その家に影響を与えるまで浸透させることだと学んだ。「賛美」が少し立体的に見えてきた。

また、分科会ではオルガンを受講した。

「半音はイエス様の痛み、十字架ね。」先生の声にハッとしました。以前から、半音の意味は知っていたにもかかわらず、それを忘れ、ただ楽譜通りに弾いていただけだった。もう一度、十字架を思い、弾いた。

今回の学びを通して、イエス様が本当に豊かに住んでくださるならば、心に与えた影響が、音にまで表れてくるのではないかと思った。目指すところが見えて感謝している。

今、心の中にヨハネ4:14が浮かんでいる。

専門的に音楽の勉強をしていないからと、参加を迷っていましたが、しかし、合唱講座で教わっている神谷智子先生から、みことばを伝えるという聖書の学びであることを聞き、受講することにしました。

本当にその通りでした。どの講座も分科会も賛美について思いを巡らせるものでした。賛美とは祈りであり、信仰の告白であり、宣教であり・・・そうになっているか。ギリシャ語の持つ意味から賛美について読み取っていく。意味にかなったフレージングで歌う。宗教改革後、自分たちの言葉で歌っていったこと。ヘブル語で読むことで、詩篇がみことばを語るような、歌うような形式になっていることを味わう。いろいろなことを教わりました。声楽や指揮法でもきれいに歌うのではなく、思いを伝える、主をほめたたえる、そのために歌うのであることを学びました。

たくさんのことを学び、頭も胸もいっぱいになってまだまだ混乱しています。一つ一つ振り返りつつ、賛美していきたいし、これからの信仰生活を歩んでいきたいと思います。

先生方が本当に一生懸命、多くのことを教えてくださいましたこと感謝します。また、クリスチャンの仲間と出会い、ともに過ごせたことも感謝します。

## 「羽村だより～研修生活のひとこま」

本科2年 若林 義也

夏期調整期間が明け、前期の学びの追い込みが始まると同時に、研修生活に「賛美練習の時間」が加わります。11月の「賛美礼拝」、2月の「教会音楽のひととき」に向け、研修生による聖歌隊が編成されるのです。

教会音楽実習の時間だけでは間に合わないため、教会音楽科目担当の先生方の協力をいただき、昼食後の時間などに練習を行います。また、歌詞への理解を深めるために、賛美が基づいている聖書箇所をの積義を研修生が行います。

もちろん、それぞれ賛美への考え方や経験には違いがあります。忙しい研修生活の中での練習に、葛藤が生まれることもあります。しかし、この備える過程は私たち研修生にとって、自らの信仰告白としてみことばを歌うことについて考え、体験させていただく貴重な機会です。研修生活という期間に特別に与えられた、強いられる？恵みであると言えるでしょう。

そのような備えを経て、私たちのために祈ってくださる皆さまと共に賛美させていただけるのは、私たちにとって大きな喜びです。

## 「オープンデイ」のお知らせ

11月6日(土)

オープンデイは、授業や礼拝にどなたでも出席いただける「公開授業」の日です。申込は不要です。見学などの機会として是非お用ください。皆様のおいでを心よりお待ちしております。

	I ~ II 8:20~10:00	10:05~ 10:35	III ~ IV 10:50~12:30	
1年	ヘブル語 (松本任弘)	チャペル (轡木由行)	旧約各書I (伊藤暢人)	教会音楽 (岳藤照子)
2年	旧約原典講読 (伊藤暢人)		旧約神学 (轡木由行)	
3年	教会学IV (教会の神学) (赤坂泉)		組織神学V(終末論) (横山昌英)	
4年	新約研究II(使徒の働き) (久利英二)		旧約研究IV (津村俊夫)	

(上記内容については、当日変更となる場合もあります。)

## 「賛美礼拝」のお知らせ

11月26日(土) 14:30

共に主の御名を賛美し、主を礼拝する時として、どなたもご参加いただけます。今年の賛美礼拝のテーマは「主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな。」(ヨブ記1章21節)です。ご多忙な中とは思いますが、ぜひお誘い合わせの上、お出かけください。

**テーマ：主は与え、主は取られる。  
主の御名はほむべきかな。**

曲目：

キリエ、永遠の父なる神よ (J.S.Bach BWV669)

苦しみわれを囲むとも (原田憲夫 岳藤豪希)

人よ罪に泣け (S.Heyden/ 岳藤豪希 J.S.Bach, BWV622)

天にましますわれらの父よ 一主の祈り (M.L.Maistre)

われは復活なり (ヨハネ 11:25.26 / 岳藤豪希 G.Dressler)

詳しくは、聖書宣教会のウェブサイト <http://www.bibleseminary.jp/> の「行事や予定など」-「行事のご案内」をご覧ください。

## 編集後記

年度前半の歩みは、いくつかの予定変更や急な計画もあり、いくらか浮き足立っていた感を否めません。加えて、学舎関係者の訃報の重なった夏を過ぎて、「すべての慰めの神」の前に立たされています。

このようなときだからこそ、主のご支配を告白し、主の摂理を確認することを大切にしたいと思います。この国、この時代の教会を、主があわれんでくださり、御国のために私たちを用いてくださいますように。